

平成22年第4回まちづくりトーク

会 議 録

地域との協働による学校づくりとは？

～学校支援地域本部のあり方について考えよう！～

2010年（平成22年）7月17日（土）

10：00～12：00

市民交流センター 第2～第4会議室

【福本市民協働課長】 始めさせていただきたいと思います。 本日は御多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、まちづくりトークを開始したいと思います。

私はまちづくりトークを担当する市民協働課の課長、福本と申します。よろしく願いいたします。

本日のテーマですが、今年度の第4回目となりますけども、「地域との協働による学校づくりとは？」です。地域コーディネーターの方々をはじめ、各学校の先生方に御協力いただき開催する運びとなりました。まことにありがとうございます。

本日はおよそ2時間の時間ではありますけれども、これまでと多少趣向を変えて、ワークショップなども予定しております。御来場の皆様の積極的な御発言をいただくことができれば幸いです。

始まる前に、御手元の資料について確認させてください。まず頭に、次第と書いてあるものが1枚。横型ですね、真ん中に「ゆいまーる」と書いてあるものが1枚。大きなA3判です、頭に「平成22年度逗子市立沼間中学校学校支援本部事業年間計画」とあるものが1枚。縦型になりまして、「まちづくりトークアンケート調査」と書いてあるものが1枚。あとは御案内ですが、今回のまちづくりトーク8月8日のチラシが1枚、夏休み親子料理教室のチラシが1枚、教育講演会のチラシが1枚です。漏れてる方いらっしゃいますでしょうか。大丈夫ですか、はい。

ではここで、市長からごあいさつを申し上げたいと思います。

【平井市長】 皆さんおはようございます。大変暑い、夏らしい季節になりました。海にでも行きたい、そんな気分ですけども、その忙しい中をきょう、まちづくりトークに御参加をいただきましてありがとうございます。

きょうは学校支援の地域本部というのをテーマに皆様にディスカッションしていただくということで、久木小学校と沼間中学校の事例を発表いただくということで、御協力をいただきました皆さんありがとうございます。

今年に入りまして、4月にはごみの問題、それから5月には医療の問題、6月は高齢者福祉、そしてきょうは学校という形で、それぞれテーマを分けて開催してきました。8月には子育てという形で、こどもフェスティバルの「紙飛行機を飛ばそう」という企画の中に連携をして、子供と一緒に遊びながら子育てについて考えたいと。そして9月にはですね、第一運動公園の再整備

がようやく基本計画・基本設計が始まりますので、これをテーマにして皆さんと再整備に向けたディスカッションをしたいなと思っております。そんなこんなで、いろんなテーマに分けてお集まりいただいた皆さんとディスカッションをして、地域のまちづくりに生かしていこうということです。

特にこの学校支援のこの取り組みは、もう歴史が長くて、このトークの場でも何回かお話をしてきました。いよいよ昨年度、地域支援本部が全学校で立ち上がって、それぞれの取り組みが本当に工夫を凝らして、皆さんの熱心な活動の成果というのがあらわれてきております。ぜひそういうものを、きょう改めて共有していただいて、それぞれの地域に帰ってまた学校とね、地域の連携というものが更に一層広まるように私としても願っております。

それからぜひ、これまでにいろいろテーマごとにいろんなトークをしてきたんですけども、もう少しじっくりと時間をかけて、今度は地域ごとにね、教育とか、環境とか、福祉とか、そういういわゆる行政の縦割りの枠を取っ払って、小学校単位ぐらいでそれぞれの地域の方と一緒に地域の課題を語り合う、そんな場をつくっていきなというふうに思っています。ぜひ、きょうは教育ということが中心ですけども、それぞれの地域でまた皆さんと、今度は地域という軸でね、語り合う場を設けたいと思っておりますので、それはまた御期待いただきたいと思います。どうぞきょうは2時間、グループディスカッションという少し形式を工夫しましたので、より密接な皆さんとのトークができればと思っております。よろしくお願いいたします。

【福本市民協働課長】 ありがとうございます。本日は教育長、教育部長が出席しておりますので、ここで紹介をいたします。青池教育長です。（拍手）柏村教育部長です。（拍手）

では、ここから本番に入っていくということです。続きまして学校支援本部、学校支援地域本部につきまして、学校教育課、川名主幹より御説明をいたします。よろしくお願いいたします。

【川名学校教育課主幹】 皆さんおはようございます。教育委員会学校教育課の川名と申します。日ごろより逗子市の学校教育に御理解、それから御支援いただきまして、本当にありがとうございます。それでは私から、簡単ですけども、学校支援地域本部について少し説明をさせていただきます。

現代社会がますます複雑化、それから多様化する中で、子供たちを取り巻く環境も大きく変わってまいりました。その子供たちが通う学校はさまざまな課題を抱えているとともに、学校に対してたくさんの役割が求められてきております。このような状況の中で、これからの教育は学校

だけが役割を担うのではなく、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力のもとで進めていくことが不可欠となってまいりました。このため平成18年に、59年ぶりに改正されました教育基本法に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」という規定が新設されました。学校支援地域本部はこれを具体化する方策の柱でありまして、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを目的としております。そして学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域教育力の向上をそのねらいとしています。

学校支援地域本部は学校を支援するため、学校が必要とする活動について、地域の方々をボランティアとして派遣する組織でございます。いわば、地域につくられた学校の応援団と言えます。逗子市の学校におきましては、かなり前から地域のボランティアの協力を得ながら、学校運営や教育活動を行ってまいりましたが、学校支援地域本部はそうした取り組みをさらに広げるものでございます。昨年度、平成21年から逗子市立小・中学校全8校にて取り組みがスタートし、全校に学校支援地域本部が立ち上がりました。それでは具体的な取り組みについて、各学校ごとに少し紹介をさせていただきます。

まず逗子小学校。逗子小学校は「環境・食育・安全」を中心的なテーマとしまして、地域コーディネーターを中心に組織づくりを行い、「生命の森づくりプラン」と関連させて、地域の方々にお手伝いいただいて植樹を行いました。また、地域の方と一緒に餅つきや清掃活動、また講師を招いての学校支援学習会などを行いました。

続きまして沼間小学校。沼間小学校は、「地域とともにつくる学校環境」をテーマに、地域教育協議会で計画が立てられ、グリーンキャップの方の指導による田植え、それから地域のお祭りに出す灯籠づくり、また警察署、暮らし安全指導員、自転車販売店の協力による自転車教室などが行われました。

久木小学校。久木小学校は、「久木小学校サポートシステムの充実」をテーマに、グリーンサポーターによる植樹、それから図書館サポーター、田植え、そしてゲストティーチャーを招いてのわくわくウィークなどを行いました。後ほど事例発表がありますので、お楽しみに。

続いて小坪小学校。小坪小学校は「小坪小学校サマースクール」としまして、オリジナル時計づくりといった工作教室、それから宿題のポスターの書き方についての教室、それからピザづくりに挑戦した親子料理教室など行いました。小坪小学校においては、コーディネートの母体は育成推進の会が中心となりました。

続いて池子小学校。「池子おはなし会から始まる地域との連携」、「池子小学校クリーンアップ作戦」、「理科学習サポート活動」をテーマに、おはなし会、音楽療法、クリーンアップ作戦、田植え体験、稲刈り体験、理科ハウスの方による出前授業、理科室の整備などが行われました。

中学校に移りまして、逗子中学校。逗子中学校は、「地域教育力を生かした環境学習の取り組み」をテーマに、ホテルの里づくりに向けた環境整備を行いました。また理科ハウスの方を講師に逗子中周辺フィールドワークを行ったり、3R運動として全校生徒・保護者・ずしし環境会議の方による地域清掃などを行いました。

久木中学校。久木中学校は「地域教育力を生かした環境学習、消費者教育、部活・合唱指導」をテーマに、社会福祉協議会の協力による福祉学習、ずしし環境会議の方の協力による環境講演会、地球温暖化防止の出前授業、また双葉保育園の協力による保育士体験、久木地区青少年育成の会の協力によるお料理自慢などが行われました。

ラストは沼間中学校です。沼間中学校は「教科及び総合学習における支援」をテーマに取り組みが行われました。グリーンキャップの支援による栽培活動、木工実習、それから若宮会の支援によります調理実習、その他修繕ボランティア活動、花ボランティア活動などが行われました。沼間中学校も後ほど事例発表がありますので、楽しみにしておいてください。

これらの各学校支援地域本部の1年間の取り組みの中で、次の3つの課題が見えてまいりました。1点目はまず、学校支援地域本部の活性化です。これは学校支援地域本部を自立的な組織にしていこうというものです。このことにつきましては、PTA活動との関係も明確にすることが必要と思われます。学校支援地域本部には、地域コーディネーター、PTA役員、学校評議員、学校管理職、そして担当職員などで組織される地域教育協議会があり、この地域教育協議会は学校支援地域本部において、学校に対してどのような支援を行うかということの方針などを話し合い、企画・立案を行います。

2点目は、地域コーディネーターや学校支援ボランティアのスキルアップでございます。これにつきましては、地域の情報やリソース等をどう把握してどう活用していくか、また学校に入ってくださいボランティアの方々に、学校のことをよく知ってもらうことも必要です。今年度につきましては、社会教育課主催の学校支援ボランティア研修を6月に3回行いました。また地域コーディネーター対象の研修につきましても、この7月末に予定されております。

3点目、これは各学校が持っている人材リストやこのネットワークを、市内でどう共有してど

う活用していくかといった内容です。ということで、2年目の今年は以上の課題を踏まえて、各学校支援地域本部にて取り組みを進めているところです。

また、8校の地域コーディネーターや、各学校の担当教職員、それから市の職員、市の職員は社会教育課・市民協働課・学校教育課の職員ですが、そのメンバーで組織されます逗子市学校支援地域本部実行委員会がありまして、年に3回実施します。その中で8校の地域本部の横の連携を強化するとともに、学校支援地域本部事業が円滑に進むように検討を行っております。

以上ですが、最後に、資料の一番最後にありました8月23日の教育講演会、ちょっと御紹介させていただきます。今年のテーマが「学校支援地域本部の可能性」ということでございます。日本大学文理学部教授の佐藤晴雄先生に御講演をいただく予定になっております。どうぞ奮って参加いただければと思います。以上です。ありがとうございました。

【福本市民協働課長】 では、ここからの進行を、市民協働コーディネーターの木下さんのほうにバトンタッチをしたいと思います。よろしくお願いします。

【司会（木下）】 皆さん、おはようございます。市民協働コーディネーターをしています木下といいます。よろしくお願いいたします。

きょうはですね、まちづくりトークなんですけど、まちづくりトークで学校というのをテーマにするのはこれが初めてではなくて、過去にも何度か学校のことを話題にしてまちづくりトークを行っているんですね。で、同じことを繰り返すよりもということで、今回はですね、ぜひ参加者の皆さんにいろいろ御意見、アイデアをどんどん出していただくというふうに考えました。つまり、事例の紹介や行政側からの説明に多くの時間を費やすのではなくて、参加者の皆さんになるべく多くの御意見、アイデアを出していただいて、それを生かしたいというふうに思いますので、ぜひ積極的な御参加、御協力をよろしくお願いいたします。

きょう、この会場に入ってきたときに、席の並び方を見て「え、こういう席なんですか？」とびっくりしての方がいらっしゃったんですけど、目の前に知らない人がいるとなかなか、どぎまぎしてしまうというか、どんどん意見言ってくださいと言われてもちょっとねえという方もいらっしゃるかもしれません。いつもと要領が違って、勝手が違ってという戸惑いを感じてらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、そののところ、ぜひ、せっかくですからいろんな方と意見交換することを楽しんでいただければと思います。

きょうですね、どんな方がいらっしゃってるのか、ちょっとお聞きしてみたいと思うんですけ

れども。小・中学生の参加は残念ながらないようですが、じゃあちょっと手を挙げていただいでよろしいですか。小学校や中学校にお子さんが通っている保護者の方、どれぐらいいらっしゃいますか。ちょっと手を挙げてみてください。はい、ありがとうございます。7～8人、9人ほど、はい、ありがとうございます。それでは小学校・中学校で先生をしているという方、どれぐらいいらっしゃいますか。はい、あ、両方兼ねてる方もいらっしゃるんですね。4人ほど、はい、ありがとうございます。

それではきょうの話題ですけれども、学校支援地域本部、学校支援のボランティアやコーディネーターとして学校にかかわっているという方、どれぐらいいらっしゃいますか。あ、多いですね、やっぱり10人ぐらい、はい、ありがとうございます。ちょっとどんなにかかわり方してるか、お聞きしてもいいですか。はい、御自身のかかわり方、どんなことをしていらっしゃいますか。

【市民】 逗子市社会福祉協議会に登録してまして、視覚障害者の福祉学習ということで、視覚障害者の誘導法などをして、福祉教育してまして、久木…あ、逗子のほとんどの小・中学校で体験いたしました。

【司会（木下）】 福祉教育の中で、ゲスト講師として行かれるんですか。

【市民】 そうですね。総合学習の時間に、そういう視覚障害者誘導體験学習というのをやらせていただいております。「あいあいガイドボランティア」というグループなんですけれども。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。こちらでボランティアしてらっしゃる方、はい。ちょっと聞かせていただいでよろしいですか。

【市民】 私は沼間中学校のサマーチャレンジで、今年で6年目になりますけれど、漢字検定などの勉強のお手伝いに伺っております。

【司会（木下）】 学習面でのお手伝いということですね。ありがとうございます。それぞれいろんなかかわりを持ってらっしゃる方がいるかと思うんですけど、じゃあ今まで聞いたどれにも属してない、まだ一度も手を挙げてないなという方もいらっしゃるかと思うので、ちょっと手を挙げてみていただけますか。あ、何人かいらっしゃいますね。結構いらっしゃいますね。じゃあ若い方に聞いてみたいと思うんですけど、きょうは何か期待するものがあって見えました？

【市民】 そうですね。教育をちょっと勉強しているので、実際にどういうことが地域で行われているのかっていうのを勉強したくて参りました。

【司会（木下）】 大学生？

【市民】 はい、大学院生です。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。という方もいらっしゃいます。まあそれぞれにきょうのテーマに関心持っておいでいただいた皆さんなんで、ぜひいろんな立場からいい意見、多様な意見を出していただければと思います。

この後の進め方なんですけれども、2つ学校での事例を紹介していただきます。小学校と中学校1つずつ。小学校は久木小学校ですね。それから中学校は沼間中学校の事例を今回は御紹介していただきます。その事例発表を踏まえて、きょうはですね、少しグループでそれを分析するといえますか、何でそんなにうまくいってるんだろうみたいなこと、あるいはこうやったらもっとうまくいくんじゃないかというような意見交換、アイデア交換したいと思います。最後にそれを踏まえて、全員で話し合いをしたいと思うんですが、そのときにはまた市長も含めて一緒にいろいろと、ざっくばらんにお話ができればというふうに思いますので、よろしくお願いします。ここからの、きょうの進め方よろしいですか。何か御質問とか、御要望とかあれば、よろしいですか。

じゃあ、まずは久木小学校の事例発表、お願いいたします。久小からはですね、地域コーディネーター、学校支援地域本部の地域コーディネーターの平さんと、それから教頭先生の大内教頭先生、見えてますので、よろしくお願いいたします。

【大内教頭】 皆様、おはようございます。久木小学校の教頭の大内と申します。どうぞよろしく申し上げます。きょうは、今年からですね、取り組み始めました、校庭の全面芝生化ということで、朝、学校に行きまして、平さんとそれから地域の方々、PTAの方々ともう水やりをしてきたところです。おかげさまで1カ月たちましたけど、芝生のほうも大変順調に育っておりまして、もう緑が青々としているというようなところ、またきょうはそういった部分もね、この中でいろいろと事例として報告させていただきます。

【平氏】 では自己紹介だけ。久木小学校で、学校支援地域本部のコーディネーターをしております平と申します。きょうはよろしくお願いいたします。では座らせていただいて、パワーポイントで資料といいますか、映像を見ながら話をさせていただきたいと思います。

【大内教頭】 それではよろしく申し上げます。本校は学校支援地域本部に取り組み、3年目になります。今までの間ですね、久木小学校サポートシステムのサポーターとして川上さん、それから平さん、そして地域の方々、PTAの方々に御協力いただきながらですね、進めてまいりま

した。今年度は3年目ということもありますので、今までやってきたことの振り返りと、そして定着というところで進めてまいります。

なお、本校、今年度の取り組みの中で、一番目玉となりますのは、先ほどもお話ししました校庭全面芝生化という形になります。この部分につきましても、やはり学校だけではどうしてもできません。地域の方々、保護者の方々、多くの方々に御協力をいただきながらですね、今、進めてまいっているところでございます。本日御紹介する事例としましては、そういった校庭の全面芝生化、それからPTAのほうから立ち上がりました白衣サポート、それから地域の方の御協力による、久木小学校の5年生を今、対象でやっております水田づくり、そのような部分を中心にですね、御紹介していきたいと思っております。

それでは、今ごらんいただいておりますのは、先日、撮りました久木小学校の校庭の芝生の様子です。このような形で芝刈りを行いまして、やっとそれらしくなりました。先週の木曜日ですよね、芝刈りしたのね。

次ですね、これは5年生の水田づくりのところで代かきなんですけど、これ子供が、大変田んぼと仲よしになりまして、田んぼのしろかきの中で泳いでいるところです。こちらのほうで泳げと言ったわけではないんですけど、とにかく子供たち、今、楽しみに稲の育ちを願っています。これ見ていただきますと、左側にいらっしゃる方が地域の鈴木さんという方で、本当に毎日のようにですね、学校に来て水田の稲の様子を見ていただいております。子供たちにも適切なアドバイスをいただいているところでございます。

これ6月になりまして、田植えも無事に終わりました、このような形になりました。この水田ですけれど、実は3年前に、やはり地域の方々にお手伝いいただいて、このような形につくりました。縦が10メートル、横が3メートルございます。

さて、6月に入りまして、校庭の全面芝生化ということで、表土の、攪拌、それから整地作業ということで入りました。

これは4月の段階で白衣サポーター、先ほどお話ししましたPTAのほうから、子供たちの白衣が、大変古くなっていると。それを何とかきれいなものにしてあげたいということで、いろいろと白衣の点検を行い、新しいものにかえていこうということなんですけど、その辺平さんのほうから何か、補足を。

【平氏】 これはですね、地域支援本部というよりもPTAから発生した、こういったボランテ

ィア・サポート活動、初めてのサポート活動になっています。PTAのほうでベルマークを集めているんですけども、そのベルマークの有効な活用法は何だろう、どうしていこうかという話し合いの中から、じゃあ汚れている白衣をそのベルマークの点数で買おうじゃないか、その目的があればベルマークを集めるのも目的があっていっぱい集まるんじゃないかという発想で、PTAのほうから出たアイデアでした。

その中でですね、でもさすがにこれだけいくらお金集めても、お金というかベルマークの点数集めても、白衣全部18クラス分、大体1クラス10着使いますので、180着は買えないよね、じゃあ自分たちでできるところは自分たちでつくろうじゃないかということで、今、この写真に載っている、この袋はですね、自分たちでつくろうじゃないかということで、PTAのほうから予算を出してもらって、こういった袋の生地を買って、この判子が皆さんうっすらと見えるかと思うんですけども、子供や動物の絵が描いてあったり、その隣には1-2、11番って書いてありますよね。こういったのも、これ全部ゴム版画で、消しゴムの判こで一つ一つ手づくりしたものです。これも地域にいる画家の方が協力してくださって、この原版を描いて、それをもとに彫刻ができるお母さんが一つ一つ起こして、これをみんなでやっていく。

これの効果なんですけれども、きょうは先生に学校の活動のことを話していただいて、僕が効果の部分と話していこうと思うんですけども、なかなかPTAの保護者の中で、弟さん、妹さんがいて、皆さんというか全体的にやっているようなPTA活動に、なかなか参加できないという方も非常に多く小学校の場合はいらっしゃいます。まだ乳幼児であったりね。そういったお母さん方、家ではこういった活動できるんですけども、なかなか学校では、学校に行つて月に1回、月2回の会合に出ることはできないわというお母さんたちの、やっていく中で受け皿になってきたものです。家庭でもできる、生地さえもらえば、家庭のミシンでこれを縫い合わせるができるね。そういった活動で昨年の秋から始まって、今回ですね、5月、6月の時点で最終的に5、6年生の分ぐらいはですね、やりましょうということで募ったらですね、大体久木小学校400世帯ぐらいいるんですけども、その中で60世帯の応募がある。1割強ですね。応募があったということは非常に大きな活動の流れになってきて、白衣を今年の夏で一段落できるんですけども、今後のこういった発展が期待できる活動の一つでした。

【大内教頭】 さて、いよいよ6月の校庭芝生化、取り組みが始まるということなんですけど、実は本校だけに限らず、逗子で芝生化ということは初めての取り組みということで、我々学校の

現場としましても、どのような形で取り組んだらよろしいのかというところについては悩みました。そこで、久木小のサポーターの方々、あるいは地域の方々とお集まりいただいて、相談をしました。そこで地域支援本部の一つとしまして、久木小校庭芝生化協議会という協議会を立ち上げました。その中で何回か話し合いを持ちまして、それぞれの部署においてどのような協力ができるかと、あるいはこれからどのような維持管理をしていくかというようなところで話し合いを持ちました。

そのような形で今、進めてきているところですが、この写真のところを見てください。この真ん中に集まっていた方々は、ボランティアの方々を募ってですね、子供たちのサポートをしてもらっているところです。あとこちらのほう、当日の芝生を植える場所の、このますを書いてありますけど、このますで子供たちが植える形にしました。で、このプランターですけど、これを切るのに大変時間がかかったんですけど、これも地域の方々や、サポーターの方々にお手伝いいただいて準備ができたところです。何分この始まるまでが、大変時間がかかりました。

そして、いよいよ6月17日9時から、高学年、中学年、低学年の順番で、芝生苗の植え方が始まりました。高学年が植えてるところですけど、これ今、この1ます大体1メートルなんですね。ここに5カ所赤いマーカーでポイントを打ちまして、そして穴を掘って植えていくと。これ砂ですので、簡単にこう掘れると。今、これ中学年がやっているところですけど、大体中学年で20ポット植えるということになっております。いろんな大人の方も入って、いろいろ植えるのを手伝っていただいています。子供たち、結構楽しく植えております。で、植えるときにですね、子供たちに自分の植えた場所は覚えておくんだよと話をしました。なぜならば、自分の植えたところはずっと残るわけですからね、自分のところは大切にしましょうということで進めてまいりました。この日、大変暑い日だったんですね。子供たちこんなふうに頭に手ぬぐいとか、ハンカチ乗っけてやってる子もいますけれど。そして当日、市長さんのほうにも来ていただきまして、御一緒に植えていただきました。市長さんのところが一番、今、育ちがよろしいようです。(笑)

次いきます。今、このような形で、11時までにはすべて植え終わりました。植え残しの部分も、いくつかあるんですけど、その部分はその後に保護者の方、地域の方、いろんなサポートして下さる方々に植えていただきまして、全部植え終わりました。当日700名以上の人たちで植えましたけれど、本当にいいお天気で、前日本当はやる予定だったんですけど、天候が悪かったために次の日にしました。このような形で植えることができました。これ、植え終わった後、また砂

を上にかぶせて成長しました。

これが6月21日の段階で、日にちをちょっと覚えておいていただくと、成長ぶりがおもしろいようにわかるんですけど。で、これが6月24日に、ランナーというのが、横から茎が伸びていくんですね。これが伸び始めてきて、この下に根が張るといような形になりました。これ、6月28日です。もうこのような形で緑がね、はっきりしてきました。そしてこれが7月1日、もうほぼランナー同士がつながり始めています。大体同じ位置から写真で撮っています。これは7月5日の芝生のランナーのつながりです。で、これが7月8日。芝生らしくなってきました。大分このあたりになってきますと、水やりも大変になりまして、最初の2週間で勝負だと言われてます。2週間、朝夕にたっぷり水をあげました。

そして13日には地域の方々等お集まりいただいて、芝刈り機の使い方、あるいは肥料のまき方、水のまき方、道具の使い方、いろんなことを説明させていただいて、これからの取り組みの確認をさせていただきました。

14日、これは横から見たところですけど、随分雑草なんかもいっぱい生えて、青々としてきました。実はこの雑草ですけど、次の日ですね、子供たちに声をかけてお昼休みに、15分間ですけど、みんなで芝生の中の雑草を取りましょうとやったところ、もうその日のうちに15分で全部取り終わりました。これは、稲も最終植えたの、現在このような形で大きく育っていますということです。

そしてこれが、芝刈りを終了した後の校庭の様子です。とってもすっきりしたなあと。ただ、まだいろいろ芝の生えそろうてない部分ありますので、これからもいろいろ手間をかけていきたいなと思っています。

これからいろいろな活動が広がっています。先ほど、白衣サポーターのほうのですね、お話ありましたけれど、このような形で今、袋がつるされ、中には白衣がきれいなものが入っております。平さん、あと何か補足あれば。

【平氏】 今、こういった久木小学校、本格的に学校支援地域を本部立ち上げて3年目になるんですけども、この中で、今年は定着を図っていくということを重点において活動しています。その中で先ほどあった白衣サポーターもそうなんですけれども、今年は何ととっても、今、説明があったように、芝生化が地域支援本部の中で大きなトピックの一つになっています。今までですね、久木小学校を取り巻く地域の町内会という組織、大体3つあるんですけども。上のほう

からハイランドの自治会、久木連合町内会、山の根自治会、3つあるんですね。発足当時、ハイランドの自治会や山の根の自治会の方が、子供たちの見守り隊として登下校の安全を見守ってくれていました。で、今年はですね、そのもう一つ、久木連合町内会というところが、この芝生の管理に関して重点的に取り組んでくれることを約束してくださって、昨年度から芝生化協議会の中に積極的に参加してくださっていて、草むしりや植え付け、先ほどこうポット分けてる、ここですね。こういったポットを分けたりですね、管理のほうも第2・第4日曜日の午前中に入ってやってくださるという形で、久木小学校を取り巻くその3つの町内会連合が、それぞれの形で学校を支援してくださる形が整った段階です。これこそまさにですね、学校という地域の中の中核である場所を取り巻くそれぞれの組織が活躍・活動することができる地域力が、ここから地域力がアップしていくという発想の、この学校支援地域本部の活動の大きな一つではないかなと、取り組みの一つではないかなと思っています。地域力を上げることも求められているわけで、ここが久木小学校3年目にして、ようやくその段階に入ってきたなという感じがしています。学校ではあくまでも、学校のニーズに応じたサポート活動が求められています。それをつなぐコーディネーターの役割も非常に重要になってきてはいるんですけども、今のところ、地域のほうを川上さん、保護者のほうを私が受け持って、学校からのニーズに応じてさまざまな人を紹介していくという活動ができているという状況です。

課題に関してはまだたくさんありますけれども、ちょっとそれを話していると時間がかなりオーバーしてしまうということで、今、プレッシャーが来ていますので、またそれはグループトークのほうでということですね、話をしていきたいなと思っています。ありがとうございます。

【司会（木下）】 平さん、大内先生、どうもありがとうございました。（拍手）すばらしく息の合ったプレゼンでしたけれども、せっかくなので一つ二つ、御質問があれば出していただければと思うんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。あ、はい。

【市民】 小坪の櫻田でございます。芝生、すばらしいなと思って、通るたびにびっくりして見ております。あと機材の件なんですけども、今後のことでね、芝刈り機とかですね、それから、これから補植をしますよね。そういうものの苗床、これは手入れは多分、地域の方がされると思います。芝刈り機などはどういうふうにして調達されるのでしょうか。

【大内教頭】 その件ですけど、実はもう委員会のほうからですね、芝刈り機につきましては、エンジン式の芝刈り機3台、手動式が2台、購入していただいております。もうさっそく使わせ

ていただいています。それから肥料撒き機、それも大きなもの2台御購入させていただいています。あと肥料についても委員会のほうからすべていただいておりますので、これから先の部分についても予算取りをしていただいで継続していくというような形になっておりますので、今のところ先の見通しとしましては、大丈夫だと思います。

【平井市長】 ちょっとすいません。これね、t o t oっていうサッカーくじの財源が使われるんです。サッカーワールドカップで盛り上がりましたけど、これは5分の4ぐらいね、そこからいただいて、芝刈り機とか全部苗も買ってあります。これは来年以降もいただけるということになってます。

【司会（木下）】 先ほどの委員会っていうのは教育委員会ですね、逗子市の教育委員会から。

ほかに御質問ありますか。はい、また後ほどグループに分かれてお話しするときに、また詳しく聞いていただければと思います。じゃあ平さんと大内先生、どうもありがとうございました。

（拍手）

では続いて、沼間中学校から地域コーディネーターの二瓶さんにおいでいただいておりますので、二瓶さんよろしくお願いたします。

【二瓶氏】 おはようございます。「おはようございます」というよりは、「こんにちは」のほうがいいのかもかもしれませんけども。今、御紹介ありました、沼間中学校のコーディネーターをしている二瓶武と申します。まず最初に、きょうはこんなにたくさんの方がお話を聞いてくれて、とてもうれしく思っております。それでは座らせて、お話を進めたいと思います。

私は沼間中学校にかかわりましたのは、もう既に20年前になりますけれども、私の次男が1期生でお世話になったのが始まりです。それ以来20年、こんなことをやって続けてきたということです。本日は3つぐらいのポイントでお話ししたいんですが、6月19日に行われたふれあいデーというのがありまして、それにつきましては最初に、いわゆる地域講師の授業ということなんです、これ出てますか。あ、これ出てますね。で、従来はですね、どちらかというと講師に丸投げというか、講師の話を聞くということが中心だったんですが、今年はまず最初に、先生あるいは生徒がみずから学習して、研究して発表して、その後に補完的にとといいますか、そういう御専門の方とか先生方に講義をいただいたというのが、新しい試みだったかなと思っております。沼間中学校は、開校以来このような授業を続けておりまして、とても参考になる授業かなと思っております。

その後、これがまさに地域本部の授業だったんですが、ぴかぴか計画というか、校内をきれいにしましょうということで取り組んだんですけれども、これもですね、まず生徒がですね、どこをやるんだと、あるいはどんなグループでやるんだというようなことを、総務会、今、生徒会っていうんですかね、その人たちが考えて、それでその後に保護者とか地域の方が加わって、1時間ほどでしたけども、みんなで汗を流したと。

それで花壇が出てきて…あ、これは校庭のほうですか、藤棚の辺ですよ。で、緑の帽子をかぶってる人たちはグリーンキャップ隊といって、小学校の紹介では見守り隊の話もありましたけれども、そのようなことしておりますけれども、中学生ですから、先ほどの川名先生のお話にもあったように、いわゆる木工とかですね、家庭科の授業ですかね、それとかあるいは、田んぼじゃないな、畑…花、要するに花壇とか、そういうものを耕したりするようなこともお手伝いしてるということですね。そういう意味では小学校と違いまして、中学生が積極的にやっぱりかかわっていくということを御理解いただきたいと思っております。それでその後に、P & Tの茶話会があったんですが、30名？ 詳しくは僕も人数聞いてないんですけど、相当数の方が御協力くださったと。で、先生方と懇親したと。

それから、話が前後して申しわけありませんが、花壇をつくったんですが、その花壇にもですね、何の花をいつごろ植えるんだと、そういうものを総務会と、あるいは環境局とかいうのがあるんですけども、その辺で引き続き検討していると。要するに主体性を持ってですね、授業に取り組んでるということを御理解いただきたいと思っております。

次はサマーチャレンジについてですけれども、先ほども、一部の御父兄から漢字検定というようなことで御協力いただいていると聞いてますけれども、これは全員の授業じゃないんですが、要するに夏休みに課題のある、挑戦的な子供たちに参加してもらおうということなんですけれども、今年は校長先生の同窓会というか、同窓生も英語とかそういうことで協力してるという応援体制ができつつあります。

それから3つ目なんですけども、中学校ですから、小学校と若干違いまして、地域に出ていこうという運動がありまして、これはほとんど従来のことですけれども、東逗子の商店街の活性化のためのふれあい市場というのがあります。そこで毎年、沼間中学校からブラスバンドを出演してもらったり、あるいは七夕に短冊を飾るというようなことしております。それから五霊神社の夏祭りが来週来るんですけども、ここには今年は十数名の参加、もともと地元のお祭りです

から、地元の間でみこしを担ごうということで、中学生にも参加していただくと。それから避難所訓練というのが計画されてますけども、ここにも二十数名参加するというようなことを聞いております。

次に、小学校と違いましていわゆるクラブ活動があるんですが、やはり地域の方との接点ということで、まずは11月に地域対抗の球技大会があります。そのときに昨年の方はテニスの方にも参加していただいて、地域で3位というような成績を残しております。それから市内駅伝、市長さんも出られるんですけど、1月の市内駅伝にはですね、沼間中学校の陸上部に積極的に参加していただいて、好成績を残しております。まあ、それはどちらかというと中学校からの地域の参加なんですけど、地域の体育会のほうもですね、テニスであったりバドミントンであったり、陸上であったり、できる限りの応援をしていこうということで、8月からはバドミントンとテニスについて大会も指導に伺うというように聞いております。

最後になりますが、広報活動に重点を入れようということで、地域への発信、これは皆様のお手持ちにある「ゆいまーる」という、これは何か沖縄の言葉で「助け合い」とかね、そういうことなんですけれども、それを第1号、担当の先生の御尽力で第1号を発行することができました。これを主な自治会に配ったんですけども、早速反応がありまして、ある自治会からはプラスバンド、要するに自治会のイベントにプラスバンドを出演してもらえないだろうか、という依頼もあったという、うれしい話を御報告したいと思います。

それと、グリーンキャップ隊のこともちょっとお話ししましたが、半田さんっていう、もう85歳の方がおられまして、その仲間がもう平均恐らく80だと思いますけど、15~16人おられるんですけど、その方が、沼間小学校は見守り隊ですけども、沼間中学校についても積極的に技術・家庭とか何かにはかかわってくれています。そういうことを御報告して、簡単ではありますが、私の報告にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

【司会（木下）】 はい、二瓶さんどうもありがとうございました。とつてもたくさんのお話を御紹介、短時間でしていただいたんですけども、二瓶さんのほうで、特に沼中でうまくいっているのを強いて一つ挙げるとしたら、いろいろ今お話あった中で、二瓶さんの観点では特にきょう、強調したいものってあれば、何でしょう。

【二瓶氏】 コミュニケーションでしょう。

【司会（木下）】 コミュニケーション。

【二瓶氏】 ええ。皆様にあえて言いませんでしたけれども、この計画表にですね、3つほど何とか反省会ってある、振り返りの会っていうのがあるんですね。

【司会（木下）】 受付でお配りした大きな一覧表が、沼中の年間計画表、これですね。

【二瓶氏】 8月にですね、前期活動振り返りの会、これ1回目ですね。10月になると…あ、ごめんなさい。12月に中期活動振り返りの会、3月は最後の振り返り会ってあるんですが、これ何ですかって僕聞いたんですけど、これは行政に出しますからあまり酒飲み会とは書けませんので、そういう書き方はしてるんですが、実は、もちろん予算はそんなには使いませんがね、懇親会ということで、先生方と保護者と我々地域の方でやると。やっぱりこういうのも一つですね、潤滑油として大事な事かなと思っております。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。皆さんから御質問いかがでしょうか。はい。

【市民】 すいません、昨年環境会議として、沼間中学校の環境教育に参加させていただいたのですけれど、本当に沼間中学校の皆さん熱心です。本当に何か、地域的に言うと沼間中学校から沼間全体を見るとかなり離れてるところもあるのではないかなと思うのですけれど、本当にやっぱりそういうサポートとか考えたとき、皆さんどの程度集まって協力なさっていらっしゃるのかなど。範囲もかなり広いと思うのですが、沼間自体の。

【司会（木下）】 どの程度の頻度で集まってということですか、関係者の方が。はい。学校支援にかかわっている方、どの程度の頻度で集まって準備とかしていらっしゃるのでしょうか。

【二瓶氏】 特に準備はないんですけども。

【司会（木下）】 打ち合わせなどもですか。

【二瓶氏】 ええ、特に打ち合わせとかそういうのはしてませんが、やっぱりもともとですね、ここにきょう掲げた事業計画も、沼間地区にあるような計画をですね、載せただけなんです。新しい事業を特にやろうとしているわけじゃないんですね、どちらかという、要するに学校が主体的にやってるわけですけど、それを取り巻く人たちが、きょうも沼間地区から多く、まあ桜山の学校区がね、桜山も一部ありますけど、来ていただいている。で、とても非常に、僕は心強く思っているんですね。ですから、特に仕掛けがなくても、やっぱりおらが学校だということに来ていただいているんじゃないかなど。ですからそういう学校、愛される学校を、我々もこれからつくっていききたいと、そういうふうに思ってます。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。今のお答えでよろしいですか、はい。ほかに

御質問あれば。よろしいですか。

それではですね、2つの事例、紹介していただきましたけれども、ここから小学校と中学校、グループに分かれて少し意見交換をしたいと思います。今の事例を踏まえてですね、3つのことを話していただこうと思うんですが。まず、なぜうまくいっているのか。こういうところうまくいってるよね、それ何でだろうというのがまず1つ、なぜうまくいってるのか。2つ目は、とはいえ課題はないだろうか。課題は何か。まだ実現できていないこと、あるいはやってみただけうまくいかなかったこと。2つ目が課題。3つ目は、その学校だけに限らずですけども、ほかの学校でもこんなことやってみたらというのも含めて、もっとこんなことができるんじゃないかというアイデア。未来に向けて、何かこんなことやってみたらという提案、アイデアが3つ目。こんなふうにしたらその課題も解決できるんじゃないか、課題の解決方法も含めてですね、いろいろなアイデアを出していただければと思います。

その3つについてグループで話していただいて、全員で話すとなかなか話しにくいと思いますので、やりたいと思うんですが、テーブルが4つありますので、小学校グループ2つと中学校グループ2つでいこうかなと思うんですけども、ちょっと手を挙げてみていただいてもいいですか。じゃあそうやって分かれるんだったら、自分は小学校グループに行きたいなという方と、中学校グループに行きたいなという方。極端に偏っていたら、2つ2つじゃなくて3つと1つにしたほうがいいのかもわからないので、ちょっと手を挙げてみてください。じゃあ私、小学校グループに行こうかなという方。はい、1、2、3、4、5、6、7、8…はい。じゃ中学校グループに行こうという方。1、2、3、4、5、6、7、8、9、10…あ、やや多いですね、どうしようかな。でもまあ、じゃあですね、3つでいけそうな感じがします。小学校グループ1つと、中学校グループ2つでいきましょうか、ね。そうしたら、中学校グループすいません、後ろの2つ使しましょう。中学校グループこちらとこちら。それから小学校グループ、ここに集まっていただいて、もしテーブルが窮屈だったら1本こっちからくっつけていただくなりしようと思います。ちょっと札を立てますね。

あ、ごめんなさい、あと移動の前に、手話や要約筆記が必要な方がどちらに行かれるかなというのがちょっと気になるんですけど、手話の必要な方、ちょっと手を挙げていただけますか。手話の必要な方。要約筆記が必要な方。大丈夫ですか。普通にグループに入ってもよろしいですか、いいですか。もし必要があれば声かけてください。よろしくお願ひします。隣に要約筆記の方が

パソコン持って行っていただくことも可能なようなので、はい。じゃ小学校グループこちら、中学校後ろ2つで、ちょっと御手数ですが移動をお願いいたします。じゃあ各グループ、教育委員会の方、ちょっと進行役をお願いします。あと市長と教育長のお2人も、それぞれに適当なグループに分かれて入ってください。時間は25分ぐらいを予定してますので、11時25分まででいきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

すいません、学校教育課の方、ちょっとコントロールをお願いいたします。

あ、25分までお願いします。11時25分。

(グループ・トーク)

【司会(木下)】 はい、それでは皆さん、すいません、話が盛り上がってますけれども、ここで授業終了ということで、お願いいたします。

はい、ありがとうございました。まだまだ話し足りない方もいらっしゃるかと思いますけど、この後は全員の、全体のトークでいきたいと思います。それではこちらの小学校グループ、ごめんなさいね、ちょっと窮屈でしたけれども、お話しいただいたポイント、この時間の話し合いの中で何か話題が集中したところ、見えてきたこと、御紹介いただければと思います。よろしく、ごめんなさい。

【平氏】 はい。では、平のほうから発表させてもらいます。大きくはですね、学校のニーズを、学校のニーズに適切にこたえられるコーディネーターの存在が大事なんだよというところをまず一つありましたけれども、そこの右下ですね。学校のニーズと…違うわ、ごめんなさい。学校のニーズをどう拾うか。学校への社会的要求にどうこたえるか。子供にとって何が必要か。その3つに対して何を考え、どういうふうにして取り組んでいるのかという質問の中で話をしていたんですけども、学校がやってほしいことに対してこたえ、できる限りやっていくのが学校支援地域本部のことですし、子供たちにとって例えばこの芝生という一つの例を挙げて話をすると、別に校庭というのは芝生でなくても全然構わない。今までもほかの小学校8校、市内8校の中で7校は土のグラウンドですし、でも芝生をすることによって、例えば校舎内の美化の問題であるとか、子供の運動能力の向上だとか、さまざまなメリットがある。そのメリットを生かすための活動なんだよという話も出てきました。それが下の、芝生化のメリットを確認してということに

つながっていくかなというところでございます。

最後の中で話が出たんですけれども、あくまでも子供に対して必要というか、教育の中で、家庭教育というのが基本で、すべてを学校に押しつけるのではなく、地域や学校、保護者が協力してやっていきたいと思いますという話に（テープ 1-B）

【司会（木下）】 ここちょっと言っといてよというのがあれば、よろしいですか。

【平氏】 あと、あれですね。市民への告知。さまざまな活動の中で、市民への周知をもっと図ってほしいということに関しては、例えば久木小学校や逗子小学校であれば、学校だよりやこのサポーター通信というのを学校のホームページでも随時アップしていますよという話をしていました。

【司会（木下）】 そういうことだと知っていれば協力したのについていう方もいらっしゃる。

【平氏】 そうですね。協力の部分に関しては、ニーズが起こった段階でやはりコーディネーターと考えて募集をかけていく、この通信の中でお知らせをしていくというのが王道だと思うんですね。その中で、例えばイベント的なことがあれば、それは学校だよりのほうでやっていく。あくまでもこの学校支援地域本部の活動っていうのがプラス・アルファなんだよということを、もう少し知らなければならぬという気は、私の立場からは感じておりました。

【司会（木下）】 地域により多くの人に理解をしてもらおうということですかね。はい、どうもありがとうございました。（拍手）

では、こちらの中学校グループ。どなたから御報告していただくのがいいですかね。

【市民】 こちらのグループのほうには、ちょうど沼間中学校の校長先生もいらしたので、質問、一問一答の質問が多かったんですが、その中で特に、子供たちの反応についてはどうだったのか、こういったね、子供たちも加わる中で活動した前と後では、どのような結果が見られたのか。特に印象に残っていたのが、こういった活動のよさというのが、先輩から後輩へ、こう代々つながれて、つながっているということ。それから自然にね、子供たちの中で、今度はこういう活動をしてみよう、それからこういった活動にチャレンジしてみよう、そういった根っこがね、ずっと沼間中学校の子供たちの中には根づいているということの御報告がありました。

また、どうやって人材を集めるかというような質問もありました。例えば人材リストの活用であるとか、そこから広がった別のまた関係者の中からそういう人材を集めてくるという方法と、もう一つは生徒自身がね、ピラを配って募集をする、こういった活動に適した人材を集める、そ

ういった積極的にね、集めるといった活動もあるという報告もありました。

ただ課題の中に、質問の中にはね、例えばですね、こういった活動については双方向性があるのか、要するに学校のニーズによって一方通行的にはならないのか、そういうのもありました。基本的にはですね、双方向というところが理想なんですけど、原則は学校からのニーズが中心ということ、また地域のほうからもニーズがあっても、なかなか学校の中での要領であるとか、活動の限界もあるということですね、本来であれば双方向が一番理想なんですけど、なかなかそこまでは至っていないということがありました。

1つ大きな課題としましては、活動が見えにくい中で、果たして本当に生徒も含めたいろいろな方に、この活動というのは啓蒙されているのか、広がっているのか、きちっと役割分担された中で活動が展開されているのかといったようなことがありました。本来ですとこの辺のところについてはね、広く御意見をいただきたいなと思ったところなんですけど、なかなか時間がない中で、今後のこういった課題を解決していくためには、まず生徒が生徒会に働きかけて、活動を生徒自身がやはり中心となって進めていく、どうしても学校と地域支援本部という、こちらの名前だけが先行して行って、生徒自身のほうが、本来は主役である生徒が置き去りになっていないだろうかというようなこともありましたのでね、生徒ができるだけ積極的に参加して行って、生徒のための地域支援本部、もちろん生徒のための学校というような、生徒中心で進めていく必要があるのではないだろうかという、そういった話題もありました。これについては本来ですとね、もっと皆様から多く意見をいただきたいかったところなんですけど、またどこかで機会があれば、こういったテーマを中心にやっていければいいかなと思っております。雑駁ですけど、以上です。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。（拍手）では最後、そちらのグループいかがでしょうか。じゃあ、川名さんお願いします。

【川名学校教育課主幹】 補足はよろしく申し上げます。このグループは中学校で、中学校の保護者の方、それから地域コーディネーター、それから市民の方、市長、それからそれから学生で、社会福祉協議会の福祉教育でかかわってくださっている大学生が5人も入ってということで、まずですね、沼間中学校のいい点、これがいいんじゃないかっていうところでは、やはりその学校からのニーズという部分では、生徒からの発信、生徒の、先ほど発表でもありましたように生徒会が考えた企画ということが取り入れられている。それから沼間中学校は、もう創立以来からボランティアさんがかかわってるんだけど、今年ですか、今年から授業形式を変えた、今まで

は話を聞くだけの授業だったのが、形を変えてワークショップであったりとか、活動を入れたというような、子供が主体的にかかわれるような授業の形に変わってきたところがよかったんじゃないか。

それからですね、サマーチャレンジにかかわってくださっている方のお話では、ボランティアに任せてくれる、そうすると自分がかかわっていて、とてもやりがいを感じながらお手伝いができるという話がありました。

それから課題と、それからこういった点を考えるといいんじゃないかという部分になりますと、いろいろあったんですが、まずは大学生の方の意見で、マクロの視点がこれから必要だと、すごくいいお話があって、これは子供一人ひとりに目を向けなければいけない。ただその子供に目を向けるには何が必要かと言ったら、学校がどういう状況にあるかも知らなければいけない。学校のカリキュラムをちゃんと知ってなければいけない。今、子供が何を学んでいるかを知らなければいけない。それには先生方のアドバイスをちゃんと聞きましよう。それから教員のOBの方の力も借りたらいいんじゃないか、要するにリソースをどう生かすかっていうところに力を注がなければいけないのではないかと。

それからですね、もちろんそれにはコーディネーターの方の力もあるんですけども、あとは学校支援地域本部が今、こういうことをやっているっていうことを、もっとどんどん発信をして知ってもらわないといけないんじゃないか。その点では沼間中学校はゆいまーる通信がスタートしてますので、素晴らしいと思うんですけども。

それから、あとは保護者の方からですとね、中学生になるとどうしても保護者のかかわりが学校と少なくなってしまう。ですから、保護者がどんどん多くかかわれるように工夫が必要なんではないかという話がありました。そうですね…すいません、補足がありましたか。よろしいですか。こんなところです。

【司会（木下）】 大丈夫ですか。はい、どうもありがとうございました。（拍手）いろんな話が出て盛り上がりましたけれども、じゃあですね、ここから全体で残りの時間お話をしたいんですが、ぜひこの点について大事だから皆さんに意見を聞いてみたいというのがあればちょっと、これについて皆さんどう思いますかっていう投げかけをしたいというのがあれば提案していただきたいんですが、どうでしょう。

【市民】 実は私はよく、例えばこの交流センターの1階の食事するところなんかで、結構小学

生、中学生、高校生がたむろしています。そうするとやっぱり、いろいろそういうところに皆さん声かけてらっしゃいますか。例えばゲームに一生懸命になって姿勢の悪い状態、これじゃ目悪くなるんじゃないかというようなときに、ちょっと声かけていらっしゃるでしょうか。

ですから本当に学校に直接ということもあるのですけれど、子供たちのことを考えて何ができるかという、そういうお一人ひとりのことがあって初めて地域づくりとか、学校への協力ということも成り立っていくのではないかと思える面もあると思うんです。例えば更生保護助成会の場合ですと、あいさつ運動ということをしています。子供たちに「おはようございます」「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」「気をつけてね」とか、そういう本当に今、あいさつのできない子どもふえているようなんですが、学校によってはあいさつをすごく大切にしてくださるところも聞いて、親にあいさつすることを教えてるんですかと、小学生にも言ったことがあります。でも本当にそういう意味で、やっぱり本当に個人個人において子供たちにどう接するかということ、そういうこともまた大切なことの一つではないかなと思いました。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。支援本部でどう動くかということ以前に、個人、大人として子供とどう接するか考えることが大事じゃないかという投げかけですが。ほかに何かこう、せつかくの機会だから皆さんと話してみたいということがあれば。はい、じゃ櫻田さん。

【市民】 ちょっと一般的な話になるんですけども、理数離れという言葉が随分前から言われていて、今はどんなふうに皆さん理解されているかというふうなことをちょっと問題提起型でね、ちょっと考えてみていただいて、どっかで議論できないかなと思っております。なぜなれば、例えば理・数というのはやっぱり数字で扱おうという、冷たい数字じゃなくてね、例えばアンケートをとる、それから政治のね、何かいろいろみんな意見を言ってくる、その意見の中にはね、平均値だけは皆さんよく使うんですが、平均値では物は全然つかめないんですよ。そのばらつき加減がね、どこでどれくらいばらついているかということもね、あらわすのはやっぱり数字なんですよ。そういう意味で、広い意味の文系といえどもね、数字はね、非常に大事だと。それは本当の実態をつかむのに非常に役に立つという意味の理数離れをね、心配しております。ということで、まあちょっと離れてるかもしれませんがね、それはいつかどっかで一度議論、皆さんのね、議論をいただきたいなと思っております。以上です。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。ほかに何かぜひっていうのがあれば、はい。

【市民】 きょうのテーマではなかったのかもしれませんが、小・中学校共通に、規範意識っていうのかな、規範意識。ルールとかね。そういうものをどっかで教えていかないと、だからこれは別な機会のほうがいいのかもかもしれませんが、これは根底にかかわる問題ですからね。だから今、沼間中学校でもいろいろあるんだけど、だめなものはだめなんだ、もう理屈なんかないわけよね。それは僕なんか会津の育ちだけど、10の教えっていうか、おきてっていうか、あつて。

【司会（木下）】 何か「ゆいまーる」に書いてありましたね。会津の話。

【市民】 ありましたか。そういうこともやっぱり教えていかないと、許されるとどんどんいっちゃうわけですね。ここまではいいかもしれない、ある程度の許容範囲も必要かもしれないけど、それを超えちゃいけないんだということを、やっぱり教えていかないといけない。それはやっぱり大人の責任かもしれない。そんなこともテーマとして、もし機会があったらと思います。

【司会（木下）】 最初に出た、地域で大人として子供とどうかかわるのかということとも共通するかもしれませんが、はい、ありがとうございます。ほかに、ぜひこのところを皆さんに問いかけたいてありますか。はい、じゃ短く、すみません。

【市民】 言葉だけなんですけど、学校支援地域本部、非常にすごい言葉ですよ、重い。もっと、今の「ゆいまーる」じゃないですけど、今までずっともう既にやられてるということなんで、この難しい言葉がひとり歩きしないようにですね、要は軽く考えるような方向で動いていただきたいなど。非常に重い言葉でね、ちょっと、せっかく今「ゆいまーる」とかね、今まで既にやられたことの延長でずっと済んでるのに、こんなすごい言葉になってるんで、その辺ちょっと心配ですね。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。文科省がつくったシステム、提案したシステムっていうことから、それが来てるのかもしれませんが。はい、じゃあもう一方。

【市民】 学校のニーズっていうところで、いつもお話、地域コーディネーターを2年やらせていただいているんですけども、やっぱり管理職って言うていいのかしらね、校長先生と教頭先生のお話はよくわかるんですが、一般の先生、こちらにもいらっしゃるかどうかわからないんですけど、大体管理職の先生になってしまって、本当のニーズっていうのがちょっと見えないかなっていうのを今、私は感じています。やっぱり一般の先生と、担任を持たれているとか、子供に本当に接していただける先生のお話を直接聞く機会があればいいかなっていうのをすごく思います。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。校長先生、教頭先生だけじゃなくということ

ですね、はい。

いろいろ、こんなことを一緒に話してみたいなというのが出ましたけれども、それについて時間が限られているんですが、私はこう思うよ、こう考えたらどうかしらっていうのがあれば御意見、少しいただきたいと思いますが、どうでしょう。あるいはね、一つ一つの問題、大きなテーマになり得るので、また場を改めてということになるかもしれませんが、どうですかね。なるべくちょっと発言してない方にお聞きしたいと思いますが、どうですか。いいですか、もしぜひという方がいれば。

【市民】 すいません、一番私なんか学校のかかわりを考えますとき、学校の先生がどれほど大変な思いをしてらっしゃるかということ、実感的に私たち知る機会って少ないと思うんです。例えば私の友達なんかは、8時、9時が当たり前、学校にいるのが。そういう状態にありながら、中には学校の先生は何にもやってないじゃないかというような声を聞くと、本当に悲しくなります。だからもっともっと学校の先生が、本当に一生懸命なさってくださっていることを多くの方に知っていただくということ、それもととても大切なことではないかと思うんです。

私も何年前、久木小学校に福祉のほうの関係でお伺いしたときに、久木小学校の先生が、「社会的にも家庭的にも、子供たちの自立心を育てるということが十分できていない。だから私たちは一生懸命、子供たちの自立心を育てたいのです」とおっしゃっていたことがとても印象に残っています。本当に先生たちは必死に取り組んでいらっしゃる。その姿勢っていうものを、もっともっと本当に多くの方に知っていただけるっていうことが、ものすごく私はしていただきたいことだなと思います。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。支援本部という組織ができたときに窓口として、校長先生、教頭先生、あるいは学校側のコーディネーターの先生だけが組織の窓口としてお付き合いするということになりがちなんですけれども、もっともっと普通の若い先生方も含めて、地域の人と子供をどう支えていくのか、子供たちにとって何が大事なのかということ、もっと何かざっくばらんに語り合える場があればいいですね。はい、ほかに一言言わせてという方いらっしゃったら、はい。

【市民】 何人かの方が御意見話されてましたように、学校へ行きますとね、校長あるいは教頭、一応この学校支援地域本部のことは知ってるんですよ。それ以外の先生方はあまり関心もないし、このことを存じてないようなんですね。これはやはり学校内でね、やはりPRして、子供に対し

てこういった学校支援地域本部が開かれてますから、お互いにまず認識してもらいたい。

もう一つ、どんなふうにして改善したらいいかといいますと、例えばあまりテーマを広げないで、例えばですよ、英検の2級を今現在、これは合格するかどうかは別として受験をしている人数が今年200人だった、ひとつみんなで盛り上げて、これを250人に上げましょうと。こういった明確なテーマを取り上げて、生徒と先生と、あと地域ですね、これがそういうテーマに向けていきますと一つ前進するんですよ。いろんなテーマを取り上げてやるんじゃないくて、その学校の特有で一つやってみたいというテーマがあればこれを決めて、生徒、それから担当の先生、校長、管理職、それから地域。これがみんなでやって、その経過・結果を楽しみながら、じゃあ次にもっと上げていこうと。じゃ次はこのテーマをしよう。こういった方法をぜひ学校が、それからコーディネーターの方々、考えていただきたいと。以上です。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。まあとにかく、学校の先生めちゃくちゃ忙しいですからね、だから校長先生、教頭先生がやれることは、担任持つ先生に負担を負わずにやりましょうということになってしまうところがあるのかしらという気もしますが、はい。じゃあここまでの話聞いて、じゃ市長からちょっと…あ、まだ、はいはい、じゃあ最後。

【市民】 今、社会福祉協議会で福祉教育であるとか、今、ボランティアセンターの運営委員もさせていただいてるんですが、ボランティアセンターがこの交流課の1階に、この1月に一応窓口を置いたというところで、今、逗子市全体の中でも、ボランティアセンターって今後どういふふうになっていくんだろうと。今までは比較的ボランティアというと、ボランティアセンターは福祉を軸にしたボランティアを、いろんな形で逗子全体を動かしてきた。とは言って、ボランティアは福祉だけではないよね、いろんな領域の活動があるよねということで、今後どういふふうに広げていこうかという動きが一つある。

その中で一つ、この学校支援地域本部が動いたことによって、今度は学校ボランティアというか、まさしくそれが一方では学校単位でも動き出したわけですね。そうすると今までボランティアの人たちって、いろんなところで動いていたのが、あ、今度は学校単位でも動き出した、テーマでも動いていっている。さあ、これ逗子市全体の中でボランティアセンターも下に置きながら、これ全体にどうしていったらいいんだろうと。もうボランティアセンターでもすごく大きな課題になってきているんですね。

ですから学校の単位からボランティアを考えるということと、またテーマからっていう、これ

絶対リンクし始めますから、ぜひとも逗子全体の中でのボランティアのあり方というところ、そして例えば社会教育課なんかはボランティア養成講座も始めてますから、こればらばらに動かしてしまうと全体像が見えにくくなってくるので、ぜひともそれをちょっと、お互いがそれぞれの立場から意識しながら、どういうふうなボランティアに関しての学びとか、またボランティアの調整だとか情報の交流ということをどうやっていくかということは、ぜひとも一緒に考えていくことが必要だろうなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。ここの1階にボランティアセンターの窓口ありますので、そこでの役割がすごい期待されてるんですって。頑張ってくださいね。はい、じゃあ市長お願いします。

【平井市長】 締めって感じですか。もうあと2～3分…。

【司会（木下）】 この意見を聞いて。もう時間がないので、あれですけど。

【平井市長】 それぞれのグループで活発な意見交換が行われて、大変有意義だったと思います。「支え上手と支えられ上手」という言葉をね、私は実は逗子小学校の今年卒業式で山西教育員が、教育委員会のあいさつの中でお話しになったのがすごく印象深いんです。まさに今、この学校支援地域本部もスタートして、もちろん沼間中学はもうずっと20年来やってて、久木小学校なんかでももう3年目を迎えてて、それぞれの学校でずっと歴史を重ねてきてるんですけども、ようやく一つの組織としてね、どうやって支えるのか、学校は支えられるのかっていうところが積み重なってきてると思います。ですから、もうこれはね、実践の積み重ねしかないかなっていうのが一つ。

それと、今、山西さんから御指摘があった、市全体としてこのボランティアも含めて、あるいは教育だけじゃなくて福祉、あるいは環境の問題っていろいろありますから、これをどうやってうまく、こうまとめながらね、みんなが同じ方向を向いて、地域づくりっていうところにね、みんなの共有して進めていけるかなっていうのが、すごく今、課題になってるかなというふうに思います。

その中でもやはり、どうやって情報を共有していくのかと。今やってることをどう発信して、みんなにこう伝えて、これだったら自分もできるよねっていうことを割と気軽に、手軽に情報が受け取れて、だったらこのお手伝いできる。あるいは、もっと自分はその地域の講師としてやりたいたいというときには、しっかりとそれを今度スキルアップするためのプログラムを用意されて

いて、そこで、学校の先生も安心して、この方だったらぜひ授業でね、協力いただきたいとか、そういういろんな仕組みもつくっていくことで、もっともっと活発になるかなっていうふうに思っています。

ですから、きょうは学校教育課が中心でやってます。社会教育課も来てます。で、市民協働課がアレンジしてます。当然その福祉の問題もあるし、環境ということもね、かかわってくるので、それぞれの持ち場持ち場がね、本当に連携して、特に市民の皆さんが一緒になってやっているの、お互いうまく顔の見える環境をつくりながら、あまりおせっかいすぎてもね、うまくいかないし、かといってもっと、例えば学校であればもっとこんなこと助けてよ、支えられ上手っていうね、もっとこんなことを力をもらえれば、より子供の教育環境がね、豊かになるのについていう、そのお互いのキャッチボールができる関係をね、つくっていききたいし、そのまさに核になるのが、この学校支援の地域本部だと思うんですね。

だから、ぶつけ合えることも当然あるでしょう。その中でお互い、いやそんなこと言われてもできないっていうこともあるかもしれないし、いや、それぞれのお互いが自分の気持ちをぶつけ合いながらね、少しずついい方向に向かっていけばなど、そんなふうに思ってます。久木小学校で芝生の植え付けを私も体験しました。これをやるのにも相当多分、地元ではかんかんがくがくあったということも聞いてます。そんなことをされたら困るっていう意見もあったということも聞いてます。でも、それはそれなりにお互いね、ぶつけ合いながらも、子供たちにとってどういう環境が一番いいのかっていうね、そこに向かっていくことで、本当に子供たちの目がね、輝くことで、私たちも勇気づけられるし、次のエネルギーになるかなと、そんなふうに思っていますので、ぜひそれぞれの地域で無理なく、できる範囲で、でもやっぱりだれかが汗をかいて、とことん頑張ろうという気でね、かかわっていただくことが、本当に地域が豊かになっていくことにつながるかなと思っているので、きょうは大学生が来てくれたのがものすごくうれしかったです。さっきここで言いました。大学生もっとやろうぜと。トークのテーマでも、じゃあ大学生と語ろうみたいなのをね、ぜひやりたいなと思ったりもしてますので、ぜひこれからもね、こうした場をつくっていききたいと思っております。

本当にきょう2時間でしたけれども、すばらしいトークできたなと思って、大変感謝をしております。ありがとうございます。私からは以上でございます。（拍手）

【司会（木下）】 はい、ありがとうございます。ゲストの3人の方、事例報告いただきました、

どうもありがとうございました。（拍手）3人の方からもし、ちょっと言い足りない、一言言っておきたいというのがあれば、よろしいですか、はい。じゃあどうもありがとうございました。

きょうはですね、いつものまちづくりトークと違ってグループで話をしてということで、積極的な参加をお願いしたら、本当に皆さん積極的にお話しただいて時間が足りなくなっていました、ごめんなさい。またぜひ、上手に機会をつくりたいと思います。御協力ありがとうございました。ここでじゃあ、司会、引き継ぎたいと思います。どうもありがとうございました。

（拍手）

【福本市民協働課長】 皆さんお疲れさまでした。時間が足りなくなってしまったのも、皆さんのほうでたくさんの御意見をいただけたという結果だと思っております。時間が足りない節もございすけども、本日の予定をこれまでとさせていただきたいと思ひます。

最初にお渡ししましたアンケートですが、会場出口で職員のほうを受け取りますので、ぜひ御記入してお渡しください。

あとですね、次回のまちづくりトークですが、お配りしました資料にもありますとおり、8月8日の午後1時半より逗子小学校の体育館にて行います。「市民と行政とのパートナーシップによる子育て支援」をテーマに開催いたします。当日はですね、文化プラザを会場に開催される子どもフェスティバルという一大イベントなんですが、その中のイベントの一つとして開催いたしますので、どうぞ御来場をお願いしたいと思います。

では以上をもちまして、終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）